

奈良市学校規模適正化検討委員会（平成 24 年度第 1 回） 会議録

1 日時 平成 24 年 7 月 18 日（水） 午後 3 時 30 分～午後 5 時 00 分

2 場所 奈良市役所 中央棟 6 階 第 2 研修室

3 出席者

【委員】重松敬一委員、岡 毅委員、古山周太郎委員、竹村健委員、
二谷幸委員、井口和美委員、上山勝己委員、新免照代委員、
中西拓也委員

（欠席 小柳和喜雄委員、畑中康宣委員）

【市職員】教育総務部長、学校教育部長、教育総務次長、教育総務部参事
（教育政策課長事務取扱）、子ども未来部参事、教育総務課長、
地域教育課長、学校教育課長、学務課長補佐、保健給食課長、
子ども政策課長

【事務局】教育政策課職員

4 会議事項

（1）新委員の紹介

（2）案件

① 平成 23 年度までの学校規模適正化の進捗状況について

② 適正化対象校区の状況及び今後の進め方について

※全て公開で審議。（傍聴人 0 人）

5 配布資料

- 平成 24 年度奈良市学校規模適正化検討委員会委員名簿
- 奈良市学校規模適正化検討委員会設置要綱
- 冊子「未来に輝く学校にするために」
- 【小学校】児童数と複式学級について
- 【中学校】生徒数と学級数について

6 議事の要旨

（1）新委員の紹介

- 事務局が、奈良市情報公開条例の指針に基づき会議を原則公開とするこ

と、会議録のホームページへの公開や会議録の作成のための録音、写真撮影等について了承いただきたい旨説明した。

- 2年任期の途中で辞任された委員の後任として、新たに委員として委嘱又は任命された方を事務局より紹介した。
 - 棕本委員の後任→岡 毅委員（立命館大学教授）
 - 山口委員の後任→竹村 健委員（奈良市自治連合会会長）
 - 岡島委員の後任→二谷 幸委員（奈良市PTA連合会中高校部会部長）
 - 今西委員の後任→井口和美委員（奈良市PTA連合会小学校部会部長）
 - 秦委員の後任 →上山勝己委員（奈良市立学校園長会会長）
 - 永保委員の後任→新免照代委員（奈良市立中学校長会会長）
 - 中井委員の後任→中西拓也委員（奈良市立小学校長会会長）

（2） 案件

- 事務局が、案件について説明。

【平成23年度までの学校規模適正化の進捗状況と適正化対象校区の状況及び課題について】

- 昨年度と今年度の7月現在までの学校規模適正化の進捗状況と課題について説明する。今年の2月に行われた第3回検討委員会において報告させていただいた状況と大きな変化はないが、それ以降若干各地域において少しずつ動き始めている。

◆全国的な適正化の状況

- 今、全国的にも子どもたちの人数が減り、適正化が進んでいる。文部科学省によると、平成4年度から平成22年5月1日までに廃校になった公立の学校数（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）は、5796校ある。これを単純に計算すると、全国で1年間に平均約322校廃校になったことになる。都道府県別では、一番廃校数が多いのは北海道で、640校。奈良県は103校である。
- 全国の年度別の公立学校の廃校の発生件数については、年を追うごとに廃校数が増えている。平成4年度は189校だったが、平成22年度は504校が廃校になった。これは約2.7倍になる。

◆奈良県内の小規模校の状況

- 次に、参考として、奈良県内の複式学級のある小学校を調べてみた。全部で7校ほど複式学級がある。大塔小学校は、平成17年に五條市に合併したが、近隣の学校（西吉野小学校）まで約30km近くある。現在、台風12号の災害の関係で、西吉野小学校において学習をしている。奈良県の中で、同じ市町村の中で、近隣の学校間の

距離が比較的近いところが、奈良市内の2校になる。

- ▶ 奈良県内の小規模の中学校について調べた。全校生徒数が50名以下の中学校は、現在17校ある。大塔中学校は、災害の関係で生徒数は1名。天川中学校と洞川中学校は、小学校がすでに天川小学校にひとつに統合したが、中学校も今後統合を含めて検討中だということである。天理市の福住中学校も天理市ではあるが、市街地から離れており、山間部の福住IC近辺の学校である。葛中学校は、一体型の小中一貫校である。奈良市の柳生中学校と興東中学校は車で5～10分、距離が約3.5kmである。

◆十津川村の適正化の視察より

- ▶ 先日、広い面積をもつ十津川村に視察に行ったので、簡単に紹介する。十津川村には、平成21年度まで、小学校が6校、中学校が4校あった。しかし、少子高齢化の現象がやってきて、どの小中学校も子どもの数が減少し、集団教育ができにくい状況が生まれた。そこで、まず平成22年4月に、北部の3小学校（上野地小学校、二村小学校、三村小学校）が、三村小学校の場所で統合再編してひとつになった。谷瀬のつり橋のある上野地地区からは、片道20km以上あり、バスで1時間以上かかる平成24年4月には、十津川村すべての4中学校（上野地中学校、小原中学校、折立中学校、西川中学校）が、小原中学校の場所で統合再編してひとつになった。生徒たちは、スクールバスで通っており、遠いところは片道1時間半かけて通っている。小学校も中学校も、この遠い距離でもひとつに統合した理由は、何なのだろうか。
- ▶ 統合した十津川中学校は、小原中学校の敷地に新しく新築していた。平成16年度のころから、統合の話があり、小学校の統合よりも話は進み、もともと先にやる予定だった。ところが、新築工事の関係で開校が遅れてしまい、先に北部の3小学校が統合した。すると、中学校が統合するまでの2年間は、小学校でひとつ、中学校になると4つに分かれて学校生活を送るという形になっていたようだ。4つの中学校をひとつにすることは、大変なことだったという話も聞いた。制服ひとつとってもそれぞれ違う。校則も違う。それぞれの地域の個性も違う。そこで、統合前から準備委員会を立ち上げて、教員を中心に話し合いを進めてきたそうである。しかし、どんなに綿密に話し合いを進めても、やはりひとつになって新たに開校しスタートしてみないとわからない部分があり、今年1年間（初年度）は試行錯誤しながら学校運営していきたいということだった。統合したメリットをお聞きすると、それは部活動が活性化したということだ

った。今まで、単独で試合に出場できなかったのが、単独で出場できるようになったことが大きく、友達関係も広がりがみられるそうだ。

- ▶ 十津川村を走るスクールバスは、全部で21台配備しており、中学校だけで7台運行している。このバスがあることによって、子どもたちが安全に通い充実した学校生活を送れている。
- ▶ 平成22年度に3校が統合した十津川第一小学校は、三村小学校の校舎に耐震工事を行い、そのまま統合校として使っている。統合の話をはじめた当初は、一番遠い上野地地区の地域住民からは、反対の声が強く、統合せずにそのまま残しておこうという話まであったそうだ。ところが、保護者の方から、人数が少ない環境では十分な教育が受けられないという要望があり、やがてその声が強くなった。その保護者の強い思いに対して、反対していた地域住民はどうとう統合に納得した。この時点で上野地地区からは小学校も中学校もなくなってしまう状況になった。このような状況は他の地域でも同じだったようである。つまりバスで1時間以上かかっても集団での教育を受けさせたいという保護者の思いが原動力となったのである。
- ▶ ここで、十津川村に視察に行つて学んだことをまとめると、次の四つである。一つ目は、保護者の強い思いが、地域住民の動かす力となるということだ。統合再編をなぜ行うのか、誰のために行うのか、その主人公にいるのは、子どもたちである。そのことを我々は、ぶれずに前面に出していかななくてはいけない。二つ目に、適正化はある程度のスピード感が必要だということである。何年もかけて話し合いを行っている、新しい年度になれば保護者等の顔ぶれも変わってしまい、せっかく説明した内容を聞いていなかったり賛成意見から反対意見に変わっていたりすることもある。十津川村では、南部の3小学校の統合再編も進めているが、こちらは統合場所の問題で思うように進んでいないようである。三つ目は、子どもたちの安心・安全な学校生活を送るために、スクールバスの活用が重要である。バスがあるからこそ、長時間かかっても集団教育を受けることができるのである。四つ目には、中学校では、子どもたちにとって、部活動が楽しくできることが重要である。十津川中学校では、野球、バレエ、剣道、陸上、卓球がある。子どもたちがやりたい部活動を選び、一生懸命打ち込めるものがあるということが大切だと思う。

◆中期計画の対象校の状況

- ▶ 中学校区別実施計画（案）中期計画の対象校のうち、柳生中学校・興東中学校、精華小学校、並松小学校、吐山小学校、六郷小学校に

については、それぞれ説明会等を開催してきたので、この後詳しく説明する。佐保台小学校については、現在宅地開発が進んでいるが、工事が遅れており、早くても平成 25 年春から夏以降に販売予定ということなので、今後はその動向を見守る予定である。田原小・中学校と月ヶ瀬小、中学校は、地理的条件から特認校制度の導入の検討となっており、今年度も昨年度に引き続いて、その特認校制度の効果と課題について、先進的に行っている学校や自治体に調査を行っていきたいと考えている。

- 適正化の進め方の基本的な手順は次のとおりである。
 - 1、教職員説明会
 - 2、PTA 役員説明会
 - 3、保護者説明会
 - 4、地域での適正化検討協議会中期計画の適正化の現状は、この後報告する。
 - はじめに、柳生中学校と興東中学校についての報告をする。柳生中学校は今年度 15 名。2 年生が男子生徒 1 名のみとなっている。興東中学校は 40 名。この 2 校を統合し、統合先については 2 校の間にある旧大柳生小学校としている。
 - 昨年度は、教職員説明会、そして保護者説明会を 2 回開催して統合再編について、説明してきた。今年度も、5～6 月に PTA 役員を中心に事前説明会を行った上で、この 7 月上旬に 3 回目の保護者説明会を開催した。
 - その中で出てきた保護者の主な意見は次のとおりである。
 - 柳生中学校
 - ・統合しても過小規模なので、改修工事に多額の費用をかけてまで統合再編する必要はない。
 - ・子どもが、統合はいやだといっているからやめてほしい。
 - ・柳生中学校に統合したらよい。
 - ・スクールバスは部活動に合わせてくれるのか。全体的にみると、統合に反対の意見が多かったように感じた。しかし、中には小さいお子さんをお持ちの母親の中には、集団教育を受けさせたいと思う方もおられ、こちらの耳にも入ってきている。
 - 興東中学校
 - ・早く中学校仕様の施設環境を整えてほしい。
 - ・柳生中学校がずっと来るのを待っているのでは困る。
 - ・興東中学校だけの移転はありえないのか。
 - ・統合場所の大柳生小学校は道路入口等が狭い。
 - ・統合の合意のタイムリミットはいつになるのか。
- こちらについては、統合には賛成だが、大柳生小学校の施設をきち

んと整えてほしいという意見が多かったように感じた。

- 次に帯解小学校と精華小学校の現状を報告する。今年度、精華小学校は15名の3学級。3年生と6年生が在籍していない。帯解小学校は148名の6学級。この2校についても、昨年度から保護者や地域の方に説明を行っている。
- 昨年度は、教職員説明会、そして保護者説明会を2回開催して統合再編について、説明してきた。今年度も、6月にPTA役員と自治会役員を中心に事前説明会を行った上で、この8月と9月に今度は地域と保護者の合同説明会を開催する予定である。今まで統合に反対意見しか聞くことしかできなかった精華地区において、保護者の幾人かから早く統合を進めてほしいという意見が出始めている状況になった。

- 説明会の中で出てきた地域や保護者の主な意見は次のとおりである。

□帯解小学校

- ・子どもが一番幸せに勉強できる環境を作ってあげるのが大切である。

- ・帯解の名前等を変えたくない人は多いと思う。

- ・小学校よりも保育所や幼稚園の問題を何とかしてほしい。帯解地区としてのビジョンを示してほしい。

このことから、帯解地区では、精華との統合は賛成だが、名前が変わることの不安、または保育所や幼稚園の問題も併せて考えてほしい願いがある。

□精華小学校

- ・自分の学校がなくなるのは寂しいが、この少人数でよいのかと考えると統合に賛成である。

- ・社会性を養うことや切磋琢磨することが教育では大切である。

- ・バンビーホームがあれば人数は増える。

- ・中間地点に新しい学校を作ればよい。

精華地区では、保護者の中に統合はしかたないのではないかという意見もある。

- 最後に都祁中校区についてだが、中期計画では、過小規模が継続するようであれば、統合再編を検討するとしている。現在、並松小学校、吐山小学校、六郷小学校ともに60名前後の6学級。しかし、来年度以降、吐山小学校と六郷小学校において複式学級が現れてくると予想されており、平成27年度以降は2校ともに複式学級が2クラスになる予定である。また、都祁地区においては、保育所が一つになり認定子ども園が開園した。そこで、保育所では子どもたち

がひとつに集まり、そして卒園後は4小学校へ、そして、中学校になると再びひとつになって都祁中へ行くという形になっている。

- 都祁地区は、昨年度に教職員と地域の自治会の方々には、説明会を実施した。そこで、今年度は、各小学校の保護者を対象に説明を行った。その中で出てきた主な意見は次のとおりである。

- ・子どもの発達段階をどう見るかということが、統合という時の主眼になると思う。

- ・統合はまだ先かもしれないが、スケジュールがどうなるのか。

説明会終了後に、2つの地区では、次のような意見を聞いた。

- ・今、保育所がひとつ、小学校で4つに分かれて、また中学校でひとつになっている。早く小学校をひとつにすればよいのではないか。

◆適正化の今後の課題

- 最後に適正化の今後の課題をまとめて、今後どのように進めていけばよいのか、ご検討いただきたいことを申し上げたい。

一つ目は、統合再編に対して早く統合してほしいという保護者が、どの地域にも目にするが増えてきた。しかし、自治会などの地域住民の前では、なかなか賛成と発言することができにくい状況がある。そこで、保護者の意見をどのように吸い上げて、適正化の方向へ導いていくのかが課題である。

二つ目は、今までずっと小規模校で過ごしてきた子どもを見て、大きな問題がない状況であれば、わざわざ遠いところまで行って少々人数が増えてもその集団教育のメリットがよくわからないという声を数多く聞く。そのメリットの部分をもどのようにして保護者に伝えていくことも課題である。

委員の皆様方の忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

● 案件について、委員が意見交換。

重松会長☞ 奈良市においては、平成19年度に学校規模適正化実施方針を策定し適正化を検討し進めてきてから、今年度で6年目を迎えている。

しかし、子どもたちの数が減少し、必ずしも質のよい教育環境の中で教育を受けているとはいえなかったり、小さいときに学ぶべき集団生活という面で課題があったりする状況がある。このことは保護者にもかなり浸透してきた。そこで、ある程度のスピード感をもたないといけないということから、このままで中期計画を終えてもいいのかと考えると、どのようにしたらよいのか、皆様方のそれぞれの立場でご意見を賜りたい。

岡委員☞ 私の経験から申し上げますと、私は以前府立高校にいて、定時制課程の閉課程の際に立ち会ったことがある。私が赴任する前から閉課程は決まっていたが、どの時期に閉課程するかははっきりと決まっていなかった。生徒は30数人いたが、だんだん人数が減ってきて、人数が一桁になってきた状況を見ていると、これは教育環境としてよくないということを非常に感じた。その理由として、学校の教育力のひとつとして子ども同士の切磋琢磨がある。人数が少なくなると、それがどうしてもなくなる。教員の力が及ばないところで生徒同士が切磋琢磨することが、ある意味で学校教育の一番大きい部分ではないか。人数が少なくなるとその部分が欠けてしまう。また、これは奈良市の教職員にあてはまるかどうかはわからないが、いくら熱心といえども、人数が少ないと生徒と教員の間には緊張感が欠けてくる。たしかに子どもひとりひとりに目配りがいくが、それがかえって甘やかすとかいうことが出てくる。だからけっして良い教育環境ではないと思ったので、いろいろあったが1年早く閉課程した。もちろん保護者や生徒は反対したが、私は校長として、閉課程はみなさんが良い教育環境に移るためということをずっと話してきた。教員ともいろいろ話をした。はじめは入学した学校で卒業させたいという話をしていたが、最終的にけっして今の状態が教育環境として良いものでないことは認めていた。そこで、統合対象校の教職員がどのように感じているのか。とくに保護者に対しては教育の専門家としての教員、なかでも校長がどのように考えているのかということをはっきりと出すことが必要なのではないか。先ほどの説明では、教職員の姿が見えてこなかった。そこで、校長は地域の特性を十分踏まえた上で、教育環境としてどうなのかということの見解を示すことが非常に重要である。

竹村委員☞ 私はまだ対象校区の会長と話を十分していないが、ひとつ思うには地域を重く見過ぎて、面子というものにこだわっているのではないか。また、教育という面から考えると、統合していかないと十分なことができないだろう。しかし、学校が遠くなると子どもをもつ若い世代が出ていき、年寄りたちは若い世代が出ていくという問題もある。このようにいろいろな問題がからんでくるからよく話し合いをしなければいけないと思う。教員だけでなく、地域や自治会を巻き込んで話し合いを進めていくことが大事なのかなと思う。

重松会長☞ ある地域では、自分たちの望ましい教育環境の学校に移動された方もいる。やはり実際にスピード感をもってやらなければいけない状

況にあるのではないか。

竹村委員☞ このような話は、できるだけ早く進めなければいけない。放っておけば放っておくほど、中間地点へ学校をもってこいなどという面子的な問題が出てきて、手がつけれないようになってしまう。

二谷委員☞ もし私が統合される側の保護者だとしたら、すごく不安があると思う。ただし、子どものことを考えると、男子が2～3人しかいないなどという中でずっと生活を送ることは適切ではないと思う。だから不安を解消できるようなこと、例えば統合した後の学校の保護者や地域の方の話を聞いたりすることができればよいのではないか。実際に子どもを通わせている保護者を動かすということは、とても大きいと思うので、そこに働きかけていく何か策があればと思う。それによって地域も大切だが、やはりこれから育つ若い世代のことが大切だと思う。

重松会長☞ 昨年度統合した興東小学校のアンケートのことをかなり発信してもらっている。とくに運動会などは、とても良かったという結果も聞いている。

二谷委員☞ そのような話を直接聞くとまた違うと思う。

井口委員☞ 話は違うが、昨日たまたま吉野の友人から葬式の話聞いた。それは、葬式会場を自宅でするか違う場所でするかで考えたらしいが、地域柄で葬式は自宅で行うのが当たり前という風習なのだそうである。本当は自宅で行うのは大変なので、違う所でやりたいのだが、周りの目があるのでできない状況にあるようだ。やはり地域柄というものがあり、そこに住まれている方は周りのことにすごく気を遣っておられるようだ。実際に子どもを学校に通わせている親の年代とそれ以上の年代とのジェネレーションギャップがすごくあると思う。だからそこに問いかけていかなければいけない。また、小学校の統合再編の話であれば、今の小学生の保護者だけでなく、これから入学する保護者にもきちんと説明することもとても大事だと思う。中学校であれば自分の学校がいいと言うのは、他の学校を知らないのが当たり前である。中学校は先ほどの話にもあったが、部活動がとても大切だと思うので、子どもたちに統合したらこんなことができるんだということを知らせることが必要であり、親の務めでもある。

中西委員☞ 私自身が小学校6年間、複式学級であった。私が住んでいるのは山添村で、かつて5小学校2中学校だったが、今は1小学校1中学校であ

る。私の孫も学校に通っており、無関心ではいられない状況である。井口委員の話と同感で、今通学している子どもたちに尋ねてもわからないと思う。だからひとつ提案として、小さな学校を卒業した人がどのように思っているのかを大事にしてほしい。私自身は複式学級がよかったと思っているが、中学校や高校になり大集団になった時に、自分が問われてくる。小学校のときにいろいろな子どもたちと交わらなければいけない。そのような経験がない子どもが、大集団に入ったときにどれだけ自分を発揮できるのか。そこで、卒業した子どもたちにメッセージを求める必要があるのではないかと思う。それから、山添村も最初は地域の有力者に統合の話をもっていった。すると猛反対であった。しかし、結局統合できたのはなぜか。それは、親の力である。親が現実の子どもたちを見て、危機感をもった。「こんなに少なくて本当にいいのか。」と。そこで、親が結集して、それが原動力となって大きな力となり、地域の高齢の方々を動かしたのである。今は1小学校1中学校で満足しているが、それでも人数が減ってきている。また、これから入学する保護者にも説明をすることも大切だと思う。この前、私が昔勤務していた田原での教え子たち二人の話を聞いた。すると、来年から田原小学校に子どもを入学させるかどうかを互いに話していたのだが、あまりにも人数が少ないので教育が成り立たないのではないかという不安の声を聞いた。親としては、地元の学校に入学させたい気持ちはあるのだが、人数がもう少し多くて、もまれて育ててほしいという思いがあるようだ。このような例から、これから小学校に上がる子どもをもつ保護者にも話を聞くような幅広いものが必要である。あくまでも主人公は子どもであるということが一番大事であり、それを忘れてはいけない。そこで、人数などの統計資料だけを示しても限界があり、取材などをしてメッセージ性をこめると説得材料になるのではないか。

新免委員☞ 子どもたちの不安という点で、子ども同士が交流しているのかということをもすごく思った。中学校は部活動などで他校との交流があるが、小学校の場合は機会が少ないので、交流することで、一緒になることへの不安がなくなるのではないかと思う。柳生中学校は修学旅行で、興東中学校と田原中学校と3校一緒に行って交流していると聞いている。また、部活動はやはり中学校ですごく大きな要因である。だから、大きな学校にいて自分の好きなクラブに入りたいということがある。統合したら部活動はどうなっていくのか。クラブ数が増えるとかいう見通しが先生方にあるのか。つまりこういうことができますよという具体的なものを示すことが必要だと思う。それが保護者を説得するポイントだと思う。人数が少なくて切磋琢磨できないし、討論もできないことなどいろんな面で不利なこと

は、保護者としてもわかっていると思う。私は以前、校区に小学校1校、中学校1校のみの学校にいたことがある。また、小学校数校から集まる中学校にいたこともある。すると数校から集まる子どもたちの方がたくましい感じがした。また、小中1校の子どもたちは、高校で中途退学する子が多かったような気がする。それはやはり急に違う環境に入ったこともあるし、今まで少人数の慣れた環境の中では人間関係作りがうまくできにくいこともある。また、村の中では子どもの人数が少ないので、とても大事にされていることもある。このようなことから、やはり人数がある程度多い方がいいのではないかと思う。

上山委員☞ 数年前に県立の高校は、統合再編が進んだ。県立の学校長とも話をする機会があるが、この高校の統合再編は比較的うまくいったのではないかという意見が多かった。私たちがこの学校の看板は下ろすことはないであろうと考えていたこともあり、関係者がびっくりするような再編であった。例えば、私が以前に勤めていた農業高校は、預かる子どもの全てが農家の子弟ではない。だから、進路も農業を目指していない。そのような子どもたちを預かって、なんとか卒業することに労力を費やしていたように思う。今から思うと、本当に子どもたちが望む教育を提供できたのか。奈良県に農業高校が何校必要だということや伝統校だからとか有力者がいるからということで存続していたように思う。今は、本当に子どもたちに必要で、子どもたちが望んでいる教育を提供するという形がなされてきて、今は定員割れもなくなってきたし、女子もたくさん通うようになったという話を聞くと、やはり子どもたちを中心に考えないといけないと強く感じる。また、一条高校では、野球部に初心者で入ってくる場合がある。その子どもたちのほとんどが山間部出身であり、中学校のときにやりたかったのだが、クラブがなかったということだった。その話を聞くと、中学校のときに自分で選択することもできなかったのかと感じたことがある。その子どもたちは、素朴で素直で良い子ばかりであったが、今の高校生が抱えている人間関係なり引きずっているものは昔の子どもとは違うので、その素朴な子どもたちをいつも明るく温かく包むことは、これからの時代ではなかなか難しいのではないかという懸念をもっている。だからこそ、中学校のときには中学校で経験できるものをできれば等しく機会を与えるべきだと思う。ある程度的人数の中で、いろいろもまれながら経験を積んで階段を上っていくことが望ましいのではないかと思う。

重松会長☞ そういえば、高校への展望という視点で話をしてもよいのかもしれない。小学校の保護者はどうしても小学校のイメージが強い。せいぜい

いっても中学校まで。その後のイメージがないというのが現状かもしれない。

古山委員☞ 都祁で説明会をされた時に、あれだけの人数が集まっているのにびっくりした。かなり関心事になっていると感じた。ある程度のスピード感が必要なのはわかるが、こうやって年月をかけて議論し、納得して統合していくことも大事な点だと思う。そういう意味では都祁地区でまだまだ先の話なのに、地道に説明をしていくことは良い取組だと思う。また、会場では保護者の意見がなかなか言えないというのは、世代の問題や面子の問題もあるし、アンケートをとって地域の人に示すこともひとつの方法なのではないかと思う。丁寧にプロセスをふんでいただければよいのではないか。

重松会長☞ 最近、大事だと思うのは、教育の質に関わって経験もある教職員が、子どもたちの将来の展望も含めた専門的なアドバイスをすることが大事だということである。あまり教育委員会が前面に出て、行政的にいくと軋轢が出てしまう。そういった意味で、コーディネーターみたいな役割を教職員が行うことがとても大きいように思う。例えば、たった一人でプレゼン資料を作り、聞き手のいない状態でプレゼンの発表練習をしている姿などを見ていると、それをきっちりと保護者や地域に伝えることが教職員の役割ではないか。

中西委員☞ 教員の力というのは、私も大賛成である。私は、最初の学校が田原小学校で、その当時も1学年1学級だったが、1クラス30人以上子どもたちがいた。それでもいずれ町に出ていく子どもたちのために、スポーツの交流大会を行った。町の子どもたちに負けないようにしようと、東部の小学校の教員が立ちあがって、子どもたちをひとつに集めて交流を行った。そんなエネルギーがあったのだ。また、佐保小学校は大柳生小学校と10年以上交流を行っていた。佐保小学校からは、70人以上がバスに乗っていく。大柳生小学校はたったの一人。そこで、大柳生小学校は気を遣って4年生も一緒にやり、合計6人でプレゼンの学校紹介をやっていた。そのプレゼンはとても素晴らしく完璧だった。それは本当に見事だった。一人の児童に一人の先生がつくから。しかし、その後ドッジボールを行ったが、大柳生小学校の子どもたちの表情がさえない。あれだけ立派な学校紹介の発表をしておきながら、70人対数人ではやはり表情は明るくない。そういう経験を伝えられるのが教師である。この子のためと思うなら、情報として保護者に教員が伝えるということがとても大きいのではないか。

岡委員☞ 対象となっている学校の教員が、どのように思っているのかということ保護者会などの機会、話していくことは学校統合に向け不可欠であると思う。この問題は地域と保護者に任せて、教員は中立的立場に立つというのでは済まない。ところが、先ほどの報告の中でも、教職員がどうしているのかということがあまり見えてこなかった。やはり教職員が動かないと、たぶん動かないと思う。教員が教育の専門家として話していくことが大事である。

重松会長☞ 今まで奈良市は複式学級を作らないということで、非常勤講師を配置してきたわけだが、これからは行政的にも必ずしも続けていけないかもしれない。その点はどうなのか。

→[教育総務部参事（教育政策課課長事務取扱）]今、多くの委員の皆様から教職員の協力が必要という意見が出ている。私は、前期計画の3年間適正化に関わったが、大柳生小学校と相和小学校、佐保台幼稚園と左京幼稚園の再編において、進み出した中には教職員の発言があった。とくに大柳生小学校においては、学校長が保護者や地域の方がおられる前で、やはりこれでは子どもたちの力を伸ばせないとはっきりと話をされた。例えば、男の子がキャッチボールをしていた時、速い球を投げるのだが、それを受けることのできるのは教師しかいなかった。これが、もし子ども同士だったらもっとよかったと思うという話を当時の学校長は、協議会の保護者や地域の委員の前ではっきりと伝えた。それを聞いて、ある母親は涙ぐむ場面もあった。また、違う地域ではある保護者が、集団は高校に入ってからで十分だという意見もあったので、やはり発達段階に応じた集団での教育が大事だということも伝えたが、なかなか理解してもらえない。教育委員会が言っても耳をかさないのに、教員が言うと話を聞く場合がある。そこで、委員の皆さんから出た意見のとおり、教員が意見を言う場面をもっと作らないといけないのかもしれない。しかし、そのことで声をかけるのだが、現実には中立の立場でいたいという教員もおり、そうしないと地域ではうまくやっていけないということも現実にあるようだ。

→[教育総務部長]たしかに現場に一番近いところにいる教員の話す声が、保護者や子どもたちにとって理解しやすいだろうと思う。また、学校の教員との信頼関係の中で、保護者は子どもたちを通わせているわけだから、それだけ教員においても責任が重いものだと感じる。その分、教員の発言というのも重みをもって保護者に受け取られるので

はないか。教育論だけなら行政の職員でも勉強したら、上っ面ぐらいは話ができるだろう。しかし、現場での経験値などを数多くもっている方が話されるのが、やはり一番良いと思う。そういう意味では、今までは教育委員会の指導主事が説明をしてきたが、校園長会と相談をさせていただいて、現場に入って話をさせていただけるのであれば力を貸していただきたい。また、行政の職員として一番気になるのは、中学で1対1などの少人数の教育が成り立っているように見えるのだが、その子が高校に行った時に、どんな世界に放り込まれるのかということが非常に不安に思う。強い子であればスムーズに行くこともあるだろうが、個人的にもとても不安に感じる。何が何でも統合再編といっているのではなく、やはり子どもたちにとってどのような教育を受けさせていけばよいのか、社会に出たときにどんな力をつけさせていけばよいのかということが、一番大切だと考えて仕事を進めさせてもらっている。地域の方にもその辺りをご理解いただけるよう努力していきたい。

重松会長☞ 6年前から適正化を始めてから、せっかくな意味での統合再編を進めていこうとしても、予算的に教育の質や環境を整えることが厳しい状況であるという感覚はあるのか。

→[教育総務部長]市長には、いつも教育においては行財政改革の視点ではなく、教育の視点で論議していただきたいと言っている。ただ統合再編が進むと、そこに集中的にお金を配分することができるので、結果的には教育の環境面においてもプラスの要素が出てくると思う。しかし、このことを統合再編の話の中では、教育委員会として前面に出すことは難しい。今、奈良市では108校園があり、その多くが老朽化している中で、例えば1校園に100万円ずつかけたとしたら、財政的にかなり大きな負担になっているのは事実である。しかし、より良い教育環境を整えることは必要なことだと思う。

重松会長☞ 以前、小学校の中に幼稚園を設置したが、かなり予算がかかっていた。だから、良い環境を設定しようとするれば、時の状況もあるので、早ければ早いほど実現が可能であるのではないか。

→[教育総務部長]より良い統合再編が進むのであれば、それに対してはお金をかけなければいけないと思う。もちろん一定の限度額というものがあるが、より良い教育環境を整えることは必要である。ただ、A校とB校を統合する場合、中間地点に新しい学校を作ったらよいのではないかという話が出てくることもある。できればそれに越し

たことはないが、今の奈良市にはそこまでの財政力がないのではないかな。

重松会長☞ 予算的に厳しい中で、良いときに良い環境を整えてあげたいのだが、引き延ばせば引き延ばすほど悪い言い方にはなるが、魅力のあるものができていかないのではと、6年間委員をやっていて感じている。
→[教育総務部長]いくら統合する学校だからといって、耐震化をしないということはしない。現にそこに子どもがおり教育が行われているのだから、安全安心は絶対に確保するためにお金をかけなければいけない。もし、統合再編が早く進めば、そのお金はいらなないかもしれない。そこで、地域の特性に応じて、すべてを同じようにすることではなく行っていきたい。

重松会長☞ 今の適正化の現状には大きな壁があり、進めるのが難しい状況ではあるが、本日はこれから入学する子どもの保護者や卒業した子どもたちに話を聞いたり、学校の教職員に協力を仰いでみたりというようなことの提案を受けた。そこで、今日の議論をふまえて、この委員会の場だけでなく、良いアドバイスや情報などがあれば、ぜひ担当者にお知恵をかしてほしい。また、それぞれの立場をふまえながら意見を集約していただけたらと思う。

● 教育総務部参事（教育政策課長事務取扱）が、本日のまとめと挨拶を行った。

☞ 説明会や協議会で反対の声を聞いて帰ってくると、ここは反対なのだなと思ってしまうことがあるが、その後「実は私は統合に賛成だったのです。」という保護者からの電話がかかってきたりすることもある。前期計画では4つほど適正化が行われたところがあるが、そのようなところの良い部分を参考にしながら、ひとつずつ課題をクリアすることで話が進んでいくと思う。また、興東小学校の統合後のアンケートでは、児童・保護者・教職員ともに統合して本当によかったという回答を得ている。例えば、保護者の中には「人数が多い方が、友達からいろいろなことを学んでくるので有り難い。」とか「助け合いの心や思いやりの心、競争心などを育みやすく、本当に良かった。」などがあつた。児童からも「野球ができる人数になって良かった。」とか「遊ぶ面で人数が多い方が楽しい。」「いろいろな考え方をもらった子と一緒に勉強できて良かった。」などがあつた。アンケートの結果も出してきたが、もっと統合した良さを前

面に出しながら進めていきたい。

- 子ども未来部参事が、認定こども園左京幼稚園のパンフレットを使って、奈良市の幼稚園の適正化の状況を説明した。
- 事務局が、次回（第2回）検討委員会について連絡した。
平成24年度第2回の検討委員会は、11月を予定している。会長、副会長と調整し、委員の皆様とも調整しながら、連絡させていただきたい。